

いわみざわの民話

第10回

いわみざわの民話は、平成9年に「いわみざわの民話」刊行委員会が発行しました。

イツチャン物語①

イツチャンという乞食が古くから岩見沢にいた。これほど市民に親しまれ、愛され、そしていまだに忘れられずにいる乞食は珍しいだろう。現在生きておれば90歳であろう。市民はイツチャンのことを、ああ、あのイツチャンか、イツチャンはね、よい家の出で、学校は一中を出ているんだよ。という、一中といえば当時東大ぐらいの値打ちがある本道唯一の名門校であるといわれている。

このことについて、イツチャンと同年の生まれでかわりの深い広瀬元吉さんが、くわしく知っている。しかし広瀬さんは、イツチャンはよい家の出だが、一中は出ていなかったといっている。わたしと同じ学校に通い尋常科4年は出ている。イツチャンの親戚の子でサッポロの学校に行ったのはいるが、イツチャンはそれきり

で、どこの学校にもいっていないという。親戚の子との間違いであろう。

広瀬さんは現在もお元気だが、90歳のお年寄りだから、あるいは記憶の誤りはあるが、このことはそうはつきりいっている。よい家の出に間違いはない。岩見沢では有名な旧家の一族であろう。一中を出たというのはイツチャンを愛する市民のフィクションに違いない。イツチャンをそんな風に美化したかった市民の夢にしか過ぎなかったのだろう。それにしても、1人としてイツチャンを悪くいうものはないのだから不思議である。

ところでイツチャンが乞食を始めたのは、30代からではなかったかと広瀬さんはいう。それもせつかく一流商店の大金持ちの家からお嫁さんをもらい、商売の独立もできたのに、それからまもなく、イツチャンの放浪無頼の生活が始まり、いつか乞食にまで転落してしまったのである。そんなよい



家の娘さんをもらいながら、幸福な前途に満ちていたはずなのに、なぜイツチャンは転落していったのだろうか。ここがひとつの謎である。本来ならば、何ひとつ不平不満もないはずである。そこには、何があったのだろうか。

《続く》

第11回は「イツチャン物語②」を紹介いたします。

発行・編集 岩見沢市総務部市民活動課

ひとの動き 平成22年11月30日現在

●住民基本台帳	人口	総数 90,322人 (前月比 -12)
		男 42,428人 (前月比 -13)
		女 47,894人 (前月比 +1)
	世帯数	42,369世帯 (前月比 +15)

岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号
 ☎ 0126-23-4111 ㊚ 0126-23-9977
 ホームページ <http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp>
 ▶救急当番医ガイド ☎ 0126-23-5153
 ▶消防テレホンガイド ☎ 0126-24-0119

この広報紙は道産間伐材配合紙を使用しています。